

# P.U.P. News

第3回定期テストや模擬試験の結果はどうでしたか？定期テストや模擬試験は、今の実力を測ると思って、あまり一喜一憂し過ぎないほうがよいでしょう。試験が終わった後、誤答レポートなどで自己分析し、同じ間違いをなくすことが大事です。

**受験勉強の目的は入試に合格し、自分の行きたい大学等でより深く学び、将来やりたい仕事に就くことです。**

今回は大学入試の仕組みを理解しましょう。まだ志望大学が未定な生徒は様々な大学を調べ、自分のやりたい仕事をイメージし、早く進路を決めて受験勉強に臨んでください。

## 共通テストの概要

### 日本最大規模の試験「共通テスト」



共通テストの正式名称は「大学入学共通テスト」で、各大学が独立行政法人「大学入試センター」と共同で実施する試験です。2020年度入試まで30年にわたり実施されてきた「大学入試センター試験(以下、センター試験)」の後継にあたる試験で、2021年度入試が初の実施となります。センター試験と同様、毎年1月中下旬の土・日曜の2日間に全国で一斉に実施される、日本最大規模の試験といえるでしょう。

※2021年度共通テストは、新型コロナウイルス感染症対策として、休校等による学業の遅れを理由に受験できる第2日程が設けられます。詳細は令和3年度大学入学共通テスト実施要項を各クラス2部ずつ配布済み。

「数学」では、数学①(数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学A)の試験時間は70分と、数学②(数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学Bなど)と比べて10分長くなります。数学①では数学的な問題解決課程を重視するとしており、そのための「考える時間」を考慮した時間設定となっています。

外国語の「英語」の受験者は、「リーディング(センター試験時の「筆記」から改称)」と別時間に実施される「リスニング」の受験が必須となっています。共通テストでは、「リーディング」と「リスニング」の配点がそれぞれ100点となり、センター試験時と比べて「リスニング」の配点比重が高くなるのが大きな特徴です。ただし、各大学が成績を利用する際には、配点比率を自由に決めることができるため、センター試験時と同じ4:1の比率を維持する大学や、共通テストの配点通り1:1の比率とする大学など、対応は分かれています。

## 2021年度大学入学共通テスト 出題教科・配点・試験時間一覧

教科	科目	配点	試験時間	選択方法
国語	『国語』	200点	80分	
地理歴史	「世界史A」「世界史B」 「日本史A」「日本史B」 「地理A」「地理B」	1科目 100点	1科目選択 60分	10科目から最大2科目を選択解答する(同一名称を含む科目の組合せは不可) 受験科目数は出願時に申請
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」 『倫理、政治・経済』	2科目 200点	2科目選択 130分 (うち解答時間120分)	
数学	① 「数学Ⅰ」『数学Ⅰ・数学A』	100点	70分	2科目から1科目を選択解答する
	② 「数学Ⅱ」『数学Ⅱ・数学B』 『簿記・会計』『情報関係基礎』	100点	60分	4科目から1科目を選択解答する
理科	① 「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」	2科目 100点	2科目選択 60分	8科目から下記のいずれかの選択方法により科目を選択解答する A 理科①から2科目 B 理科②から1科目 C 理科①から2科目及び理科②から1科目(同一名称を含む科目の組合せも可) D 理科②から2科目 選択方法は出願時に申請
	② 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	1科目 100点  2科目 200点	1科目選択 60分  2科目選択 130分 (うち解答時間120分)	
外国語	『英語(リーディング、リスニング)』	各 100点 計 200点	英語 リーディング80分 リスニング60分	5科目から1科目を選択解答する
	『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』	200点	その他 80分	

※「国語」は「国語総合」の内容を出題範囲とし、近代以降の文章(100点)、古典(古文50点、漢文50点)を出題

※「地理歴史および公民」「理科②」の2科目選択者の試験は、解答順に第1解答科目・第2解答科目に区分し、各60分で実施する。

試験時間130分には第1・第2解答科目間の答案回収等の時間10分を含む

※「英語リスニング」の解答時間は30分、試験時間60分には機器の動作確認等の30分を含む

## 大学入試のもう1つの柱～学校推薦型選抜(推薦入試)

「学校推薦型選抜(推薦入試)」は一般選抜に次ぐ規模の選抜方式で、国公立大学では全体の9割以上の大学が実施しています。近年は、東京大学や京都大学などの難関国立大学でも推薦型の入試が導入されるなど、広がりをみせています。

一般選抜との一番大きな違いは、出身高校長の推薦を受けないと出願できない、という点です。出願にあたっては、「調査書の学習成績の状況○以上」「○浪まで」といった出願条件が設定されている場合もあり、誰もが出願できる入試というわけではありません。

学校推薦型選抜は、様々なタイプの選抜がありますが、大きく分けて「公募制」と「指定校制」の2タイプに分かれます。「公募制」は、大学の出願条件をクリアし、出身高校長の推薦があれば受験できる選抜です。一方の「指定校制」は大学が指定した高校の生徒を対象とする選抜ですが、私立大学が中心となっており、国公立大学ではほとんど行われていません。

また、一般選抜とは違い多くの大学では、「出願者は、合格した場合は必ず入学する者に限る」専願制の入試となっています(近年、他大学との併願が可能な併願制も増えてきています)。

学校推薦型選抜を考える場合は、出願するうえで制約があることと、原則第1志望校に限った入試であることを理解しておきましょう。

### 国公立大学の学校推薦型選抜

国公立大学の学校推薦型選抜は、私立大学に比べて募集人員が少なく、出願条件のうち「学習成績の状況4.0以上」など厳しい成績基準を設けている大学があるほか、1高校からの推薦人数が制限される場合は、出願前に学内で選抜が行われるケースも少なくありません。また、国公立大学の場合は、共通テストを課す場合と課さない場合の2タイプに大別され、その入試日程も大きく異なります。

大学での試験は様々ですが、2021年度入試からは、小論文など受験者自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法のほか、プレゼンテーション、口頭試問、実技、教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績、共通テストなど、学力を確認する評価を実施することが必須となります。すでに「面接」「小論文」を課す大学は多く、口頭試問を含んだ面接や学科に関連した専門的知識を要する小論文が課されることも珍しくありません。

### 私立大学の学校推薦型選抜

私立大学の学校推薦型選抜は、入学者比率が40%以上を占めており、一般選抜と並ぶ私立大学入試の大きな柱といえます。選抜方法は、小論文や適性検査、面接、基礎学力試験、調査書等の書類審査をさまざまに組み合わせで選考されています。近年は適性検査や基礎学力検査といった名目で学力を測る試験が行われている大学も目立っています。私立大学のさまざまなタイプの学校推薦型選抜は、一般選抜と同様に多様な選抜が実施されており、「スポーツ推薦」「有資格者推薦」「課外活動推薦」などがあります。「スポーツ推薦」は、その名称の通りスポーツに秀でた学生の獲得を目的とした選抜で、出願にあたっては高校時代の競技成績が基準となります。「有資格者推薦」は、実用英語技能検定(英検<sup>®</sup>)やケンブリッジ英語検定といった民間の英語資格・検定試験や、日商簿記などの技能をもつ受験生を優遇する選抜です。「課外活動推薦」は、生徒会

活動や部活動、社会・地域奉仕活動などで活躍した人を対象にした選抜となっており、コンクールや競技大会での秀でた実績を出願要件とする大学も少なくありません。

## 第3の入試～総合型選抜(AO入試)

総合型選抜(AO入試)とは、エントリーシートなどの受験生からの提出書類のほか、面接や論文、プレゼンテーションなどを課し、受験生の能力・適性や学習に対する意欲などを時間をかけて総合的に評価する入試方式です。従来の入試方式と比べると、「高い学習意欲」「学びへの明確な目的意識」が選抜基準として重んじられているため、選抜方法もその点が判断できるような内容となっています。出願時に受験生自身が作成して提出する書類が多いことも特徴です。

2021年度入試からは、学校推薦型選抜同様に、各大学が実施する評価方法に、共通テストを含む教科・科目に係るテストや小論文、プレゼンテーションなど、学力を確認する評価方法を活用することが必須となります。

### 決して優しくはない国公立大学の総合型選抜

国公立大学の総合型選抜では、出願9～10月、合格発表11～12月上旬といった入試日程が一般的です。出願条件は、「学習成績の状況」の成績基準がなかったり、高卒生でも出願できるなど、学校推薦型選抜より緩やかな場合が多いです。ただし、大学によっては「英検<sup>®</sup>などの有資格者」「全国コンテストの上位入賞者」といった条件が加わっていることもあります。

選考方法は1次:書類審査、2次:面接(プレゼンテーションも含む)・小論文といった選抜型タイプが一般的です。このほか、セミナーやスクーリングなどに参加してレポートを提出させるといったものもあります。また、基礎学力を測るために、共通テストを課す大学もあります。

総合型選抜は一般選抜や学校推薦型選抜に比べると、大学も選抜に時間をかけており、受験生側にも労力がかかります。また、出願時に提出するものも多岐にわたる場合が多く、事前準備が他の選抜以上に多いことも特徴です。受験を考える人は早い時期からの対策が必要となります。

### 私立大学の総合型選抜は対話型が多い

私立大学の総合型選抜の選抜方法はバラエティーに富んでいて、同じ総合型選抜という名前でも大学によりかなり違いがあります。難関大学では、国公立大学と同様に1次:書類審査、2次:小論文・面接というパターンが一般的で、加えてセミナーやスクーリングの実施、プレゼンテーション、グループディスカッションなどを組み合わせ、時間をかけた選抜方法を取り入れています。書類審査は厳しく、出願者の多くがここでふるい落とされます。出願要件も全体的に厳しく、学力や傑出した能力が重視されるケースも多くみられます。

一方、多くの大学で行われているのが対話型の総合型選抜です。エントリー後、事前面談、予備面談なども含めて複数回面談を行い、出願許可されると合格内定を得ることができます。このタイプの総合型選抜は、大学・学部への適性や学ぶ意欲がより一層重視されます。

総合型選抜は早期に合格が決まるため、早い時期に志望校を決定しなければなりません。また、その入試の趣旨から出願校＝第1志望校となりますので、安易な受験は禁物です。自分の進路・適性をしっかりと考えたうえで受験しましょう。

<kei-net より>